

このページは、小・中学生に向けて小学生によるさまざまな仕事体験を紹介し、記事は梅光学院大学子ども学部子ども未来学科の学生が作っています。

しものせき キッズページ

どいがはまいせき じんるいがく
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで
お仕事体験!!



どいがはまいせき じんるいがく
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

土井ヶ浜遺跡は弥生時代の人が30体も出てきた所なんだ。ここには土井ヶ浜ドームという施設があって、実際に発掘された様子が復元されているんだ。不思議なことに、ほとんどの人骨が海の方を向いてたんだって。土井ヶ浜の弥生人は、海の方からやってきた人たちだと考えられていて、海の方のここのふるさとを見られるように埋葬されていたのかも知れないね。



海の方を向いてるんだ

今回は豊北町神田の土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで学芸員体験をしてきたよ。学芸員の仕事をしておさらいしておく、学芸員は資料を集めたり調べたり、展示したりする専門家のことだったよね。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムではどんな体験ができたかな？



11月号の参加者(前列左から右へ)
滝部小学校2年の白尾紗也さん、4年の林亮太郎くん、4年の三好爽良くん、6年の川島琉偉くん、4年の門松陽太くん、6年の自尾颯士くん

人の頭の骨をつなぎ合わせるお仕事も、みんな少し怖がりながらもやったよ。この骨は土井ヶ浜とは別の所から出てきた大昔の人の骨なんだけど、骨の厚さや模様、ひびの入りをしながら慎重に合わせましたよ。大藪さんは、パッと見ただけで、だいたいどこどこが合うか分かるみたい。すごいね。



今回は砂の中に埋まっていた骨(本物だよ)をきれいにしておく仕事と、バラバラになった人の頭の骨(これも本物)をつなぎ合わせるお仕事を学芸員の大藪さんに教えてもらいました。



きれいに埋まっていた骨は動物の骨で、大昔の犬や馬・牛の骨なんだって。骨には砂がいっぱい付いているから、骨を壊さないように筆を使いながら丁寧に砂を落とす作業したよ。



編集作業の様子

編集記者は、桐野竜太さん、隅山智哉さん、中嶋黎さん、中川慎人さん

今回、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで学芸員のお仕事体験をして、砂の中に埋まっている骨を手掛かりに、弥生時代など昔の人々の生活や、人がどこからやって来たのかを考えることができるんだって分かったよ。骨はもちろん何もしやべらないけど、発掘された骨は、大昔の様子や歴史を調べる大きな手掛かりになるんだね。みんなも、学芸員さんの知識のすごさや話の面白さに「将来、こんな仕事をしてみたいなって思ってくれたみたい。ぜひ行ってみたいね。